



京都と銭湯

“一月往ぬる二月逃げる三月去る”の言葉のとおり、気が付くと3月も終わりを迎えようとしています。ただしい日々の中で湯船につかるひと時に安らぎを感じる人も多いのではないのでしょうか。今回は、大きな湯船が魅力の“銭湯”についてお話しします。

一般に「銭湯」と呼ばれるものは、「一般公衆浴場」として、その数が厚生労働省により調べられています。グラフの起点となる平成5（1993）年には1万箇所を超えていた「一般公衆浴場」ですが、風呂付きの住宅の普及とともに、燃料高騰や後継者不足などの問題に直面し、最新のデータを見ると、施設数は約3千箇所まで落ち込んでいることが分かります。（図1）

次に、銭湯の数（＝施設数）を全国で比較してみます。都道府県別にみると、151箇所を有する京都府は人口10万人あたりの施設数が全国で5番目に多いことが分かります。

（表1）

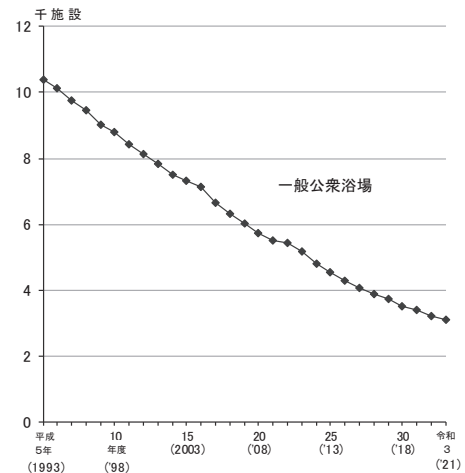
さらに、指定都市・中核市別にみても、人口10万人あたりの施設数が9.2箇所である京都市が、青森県にある青森市、八戸市に次いで全国で3位です。

5位の東大阪市、7位の大阪市、10位の尼崎市をあわせると、関西圏で4つの市が10位以内にランクインしていることが分かります。（表2）

減少の一途をたどる銭湯ですが、存続の裏には京都を含めた関西の人々の銭湯愛が隠されているのかもしれません。

少しずつ春らしさを感じられる頃になりましたが、まだまだ肌寒い日は続きます。毎日の疲れを癒しにお近くの銭湯を訪れてみてはいかがでしょうか。

図1 一般公衆浴場数の年次推移（全国）



注 平成5年は暦年、それ以外は年度末の数値
出典：厚生労働省「令和3年度衛生行政報告例」

表1 都道府県別人口10万人あたりの施設数

順位	都道府県名	施設数	人口10万人あたりの施設数
1	青森	281	22.7
2	鹿児島	261	16.4
3	大分	131	11.7
4	富山	78	7.5
5	京都	151	5.9

表2 指定都市・中核市別人口10万人あたりの施設数

順位	市名	施設数	人口10万人あたりの施設数
1	青森市	37	13.4
2	八戸市	27	12.1
3	京都市	134	9.2
4	鹿児島市	53	8.9
5	東大阪市	43	8.7
6	富山市	36	8.7
7	大阪市	234	8.5
8	甲府市	16	8.4
9	函館市	19	7.6
10	尼崎市	29	6.3

資料：厚生労働省「令和3年度衛生行政報告例」、総務省「令和2年国勢調査」をもとに都道府県及び全国の指定都市・中核市を比較